

カンキツ黒点病に対する固着性展着剤の加用効果

[要約] カンキツ 黒点病の防除薬剤であるマンネブ及びマンゼブ剤に、パラフィン系固着性展着剤（ペタンV）を加用すると、残効が長くなって防除効果が向上する。

長崎県果樹試験場・病害虫科	専 門	作物病害	対 象	果 樹 類	分 類	普 及
---------------	-----	------	-----	-------	-----	-----

平成 8年度長崎県果樹試験場業務報告

平成 8年度九州病害虫防除推進協議会 防除法確定連絡試験成績（果樹編）

[背景・ねらい]

カンキツ黒点病に対する防除薬剤の効果を高めるために、固着性展着剤の加用効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ①ペタンV 1,000倍を加用すると、マンネブダイセンM水和剤及びペンコゼブ水和剤単剤より防除効果が高くなり、加用効果が認められる。

[成果の活用面・留意点]

- ①現在、中晩柑類では農薬登録がないので使用しない。
- ②本展着剤は蒸散抑制効果があり、果実品質に影響を及ぼすことがあるので、高温期に使用しない。
- ③殺虫剤などの乳剤と混用すると、薬剤の付着量が低下するので、残効の助長は期待できない。

[具体的データ]

表1 カンキツ黒点病の防除薬剤に対する固着性展着剤の加用効果

試験区及び使用濃度 ²	10月24日調査		
	調査果数 (果)	発病果率 (%)	発病度 ³
マンネブダ'イエンM600倍+ペタンV1,000倍	104	38.5	6.04
マンネブダ'イエンM600倍	296	48.0	7.53
ペンセブ'600倍+ペタンV1,000倍	219	27.9	4.11
ペンセブ'600倍	126	42.9	6.35
ジマダ'イエン600倍	307	40.7	6.65
無散布	305	100.0	33.77

² 6月19日, 7月25日, 9月10日に散布。
(ただし, 落弁期の5月31日に全試験区に対して, テランコアブル1,000倍を散布)

$$^3 \text{発病度} = \frac{\text{少} \times 1 + \text{中} \times 3 + \text{多} \times 5 + \text{甚} \times 7}{\text{総調査果数} \times 7} \times 100$$

表2 試験期間中の気象概況

期 間	5.31~6.18	6.19~7.24	7.25~9.9	9.10~10.23
降雨期間(日)	9	23	12	9
降水量(mm)	175.5	341.5	366.0	89.5

[その他]

研究課題名：カンキツ病害虫の防除法に関する試験

予算区分：委託

研究期間：平成8年（昭和59年～）

研究担当者：古賀敬一、西野敏勝

既発表論文等：平成8年度 長崎県果樹試験場業務報告

平成8年度九州病害虫防除推進協議会 防除法確定連絡試験成績（果樹編）